

県産杉を8割使用した木造住宅 テーマは「雑木林が囲む静かなくらし」



内野設計代表の内野輝明さん(51歳)
城南高校、大阪工業大学建築学科卒。住宅や店舗のほか、教育施設や医療施設など手がける物件は多岐に渡る。一級建築士。

田 園風景が広がる石井町の静かな場所に建てられた木造住宅。深い軒下には奥行きのある縁側がぐるりとめぐらされ、家族の時間を豊かにしている。玄関を入ると、居間・台所・畳の間がひと続きになった主室が広がる。それぞれ引き込み戸で3室に分かれる仕掛けだ。北側には個室とロフトを配置し、主室から直接出入りできる。部屋と部屋は廊下でつながるのが一般的だが、この家に廊下は存在しない。設計した内野設計の代表内野輝明さんは「廊下の面積がもったいないから(笑)。廊下をなくす方法を考えて図面を引いています」

とサラリ。家全体をワンルームのような構造にして空気を循環させ、家中の室温を揃える工夫も凝らす。高いところに開けた穴から温もった空気が床下に入り、各部屋へ上がってくる仕組みで、これによりヒートショックをなくせると内野さんは話す。施工は島出建築事務所が手がけ、8割に県産杉を使用。名コンビで完成させた木造住宅は、「平成26年度徳島県木の家コンクール※」の新築部門で知事賞を受賞している。

※県産材の利用や耐震省エネに優れ、木の良さを生かした住宅を表彰。県産材の利用促進や耐震性、省エネ性の高い住宅の普及促進、高度な建築技術の継承を目的に徳島県木造住宅推進協議会が主催している。



ロフトには透け床を採用。1階への採光の役割も担う。



居間、台所、畳の間が連なる。引き込み戸を閉めれば、独立した3室になる。



木製建具の入った大開口が魅力的な外観。



内野設計
徳島市万代町5-71
088-626-9567
気軽に問い合わせ可



主室から庭に向かって深い軒がのびる。庭には常緑樹、落葉樹、花のなる木、実のなる木が植えられ、将来の姿を楽しみにさせる。



木製のカドマド。日中は田園や遠くに見える山容が美しい。日没後は星空を眺めながらグラスを傾ける。



寝室にはランダムな小窓を配置。